



第3回パーソナル・サポート講座 実施報告書

平成 24 年 11 月 9 日
これからの暮らし仕事支援室

1 目的

岩手県内で実施しているパーソナル・サポート・サービス事業の理解と、地域における支援と連携強化、生活困窮者への寄り添い型・伴走型支援の充実を図ることを目的とする。

2 日程表及び講義内容

日時：平成 24 年 9 月 7 日（金）、8 日（土）、14 日（金）、15 日（土）

時間：1 講座 90 分

9 月 7 日（金）

11	オリエンテーション/ご挨拶	岩手県商工労働観光部雇用対策・労働室	特命参事兼雇用対策課長 高橋 宏弥
12	「これからの暮らしと社会的包摂 ～パーソナルサポート手法～」	これからの暮らし仕事支援室	参与 吉田 直美
13	うつとメンタルヘルスと相談窓口	盛岡市保健所保健予防課	障がい保健担当 副主幹 野表 千鶴子
14	社会的企業とパーソナルサポート	街中銭湯 ながまち梅の湯	マネージャー 吉田 良勝
15	事例発表会	これからの暮らし仕事支援室	パーソナルサポーター 菊池 奈保子

9 月 8 日（土）

21	オリエンテーション		
22	DV 相談の現状	岩手県福祉総合相談センター	児童女性部女性相談課長 土屋文彦
23	障がい者への就労支援	障がい者人材センター らいふ	所長 大和 進
24	依存症からの回復	岩手県断酒連合会 久慈断酒新生会	代表 竹中 保夫
25	事例発表会	これからの暮らし仕事支援室	パーソナルサポーター 花坂 圭一

9月14日(金)

31	オリエンテーション		
32	ひきこもりとその支援	岩手県ひきこもり支援センター	相談員 阿部 直樹
33	地域包括支援センターと中高年齢者への支援	浅岸和敬荘 地域包括支援センター	部長 阿部 寿恵
34	自殺に傾いた人を支えるために	岩手県精神保健福祉センター	主任保健師 佐々木志麻 保健師 大森 美紀
35	事例発表会	これからのくらし仕事支援室	パーソナルサポーター 宮地 恭子

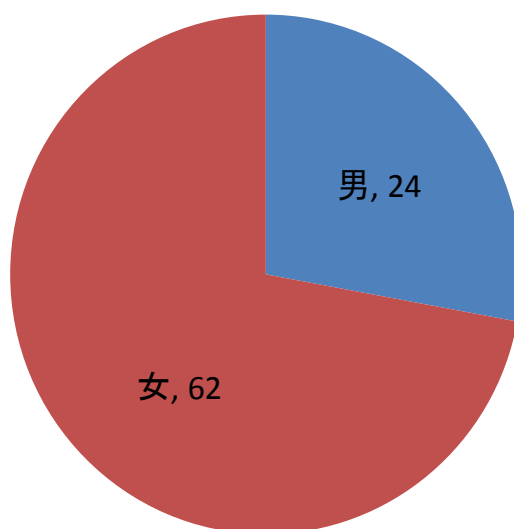
9月15日(土)

41	オリエンテーション		
42	生活保護について	盛岡市保健福祉部生活福祉課	社会福祉主事 米島 克也
43	グリーフサポートについて	特定非営利法人 いわてグリーフサポート	理事 高橋 孝一
44	これからの社会的企業の展開について	岩手県立大学社会福祉学部 福祉経営学科	経営情報学博士 教授 宮城 好郎
45	修了証書授与式	いわて生活者サポートセンター	事務局長 藤澤 俊樹

3 パーソナル・サポート講座 参加者

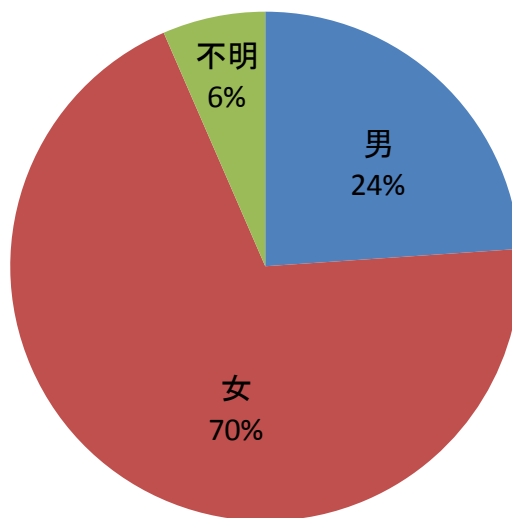
参加者実数： 86名(スタッフを除く)

参加者総数:1040名(全20講座)

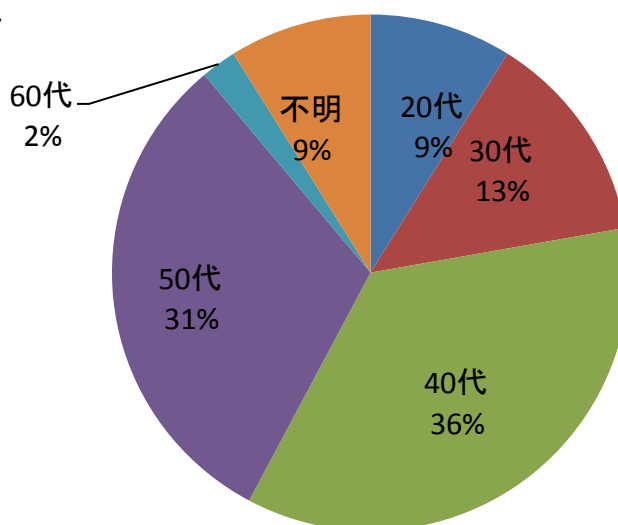


4 パーソナル・サポート講座 アンケート集約

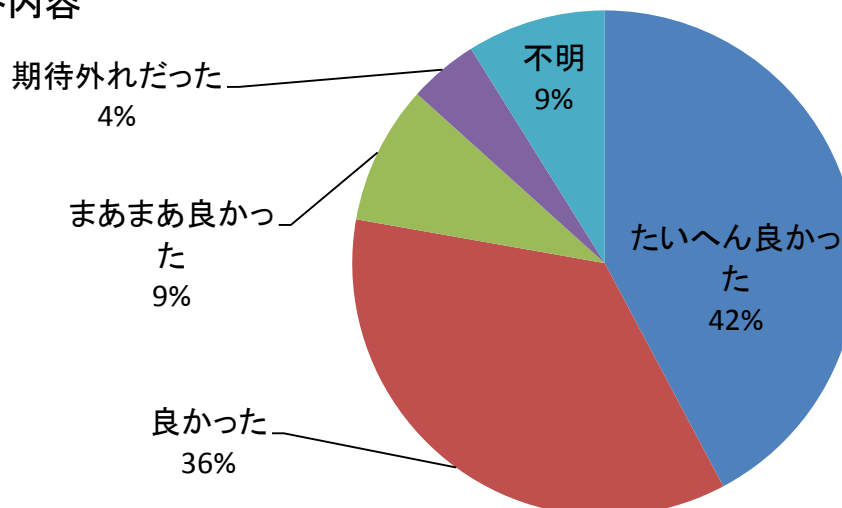
回答者属性



参加者年齢



アンケート内容



2. 講座を受けて今後どのようなことを実行していきたいですか。

- ・ そのようなことに直面した、また周りの方々が困り、訴えたところに、少しでも即座に講座で知識を得たことを促せばと願う。
- ・ パーソナル・サポートについて学ぶこと。具体的な手法について。
- ・ 現在就労相談員をしているが、様々な相談者に対応するには、まだまだスキルも知識も不足していると感じている。どういう機関でどのような支援をしているのかということも、表面的なことしか知らない。少しでも情報を得ることで相談者の役に立ちたいと思う。
- ・ 相談員として傾聴を重視し、押し付けることなく様々なケースに添った対応をしていきたい。
- ・ 不勉強な部分が大いにあるので、今日学んだ知識を今後の相談業務、支援の中で役立てていきたいと思う。
- ・ 社会的包摂の考え方で色々な手法を学び、色々な人の話を聞いていきたい。
- ・ 自分に何ができるのだろうと改めて考えてしまった。
- ・ 具体的な連携先機関を教えてもらったので、相談の際は案内と情報提供をしていきたい。
- ・ 担当した講師の方々のように深い知識を持つのは無理だが、せめて意識だけは高く持ちたいと考えた。
- ・ 聴く側の態度に関して考えさせられた。
- ・ いろいろな人との関わりをしていく上で、講座を受けて頭に入ったことを生かしながら対応していけたらと思う。
- ・ 関連分野の知識を深めたい。
- ・ 相談窓口業務をしているため、相談者への対応の重要性（言動等）を改めて感じ、今度の相談業務では常に意識していきたいと思った。（自殺に傾いた人を支えるために）
- ・ 相談者に寄り添って相談していく姿勢を大切に業務をしていきたいと思う。
- ・ ニート（グレーゾーン）の方の支援を行う。
- ・ 福祉現場で働いていたが、困難事例が多く、どこか一線を引かなければ前に進めなかった。これからは、各分野の方々から勇気をもってアドバイスを聞いて、仕事に、問題解決に生かしていきたい。
- ・ 一市民としても、いろいろな方がいろいろな苦しみを抱えていることを統計的に学ばせてもらい、大変勉強になった。隣人に対してから・・・でも、学んだ心がけは役に立つと思う。
- ・ 日々の業務において、広がった知識を活用していきたい。
- ・ 今後実施されるであろう「子供若者育成支援」においても、カウンセリングや支援活動をするうえで活用できる。
- ・ 相談者から信頼されるようなサポートをしていきたい。
- ・ 電話相談をしているが、今度この講座で学んだ施設、機関にしっかりつなげていきたいと思っている。
- ・ 社会的包摂の考え方で、生活困窮者が必要とする支援が受けられるよう、たらい回しにせず、次のステップへと進めるような支援、情報提供をしていきたい。また、そのために、必要な制度等の知識も深めていきたい。
- ・ 生活困窮者と思われる人からの相談も増えつつあり、生活保護制度の理解と適切な利用方法のアドバイスができればと思った。
- ・ 今回の講座で勉強したことを参考に、仕事に生かしていきたい。

- ・ うつやアルコール依存症の方への援助をする際に、講義での内容を実践できるようにしていきたい。
- ・ “パーソナルサポート手法”として教わった方法で、個人にじっくり関われる時間があまりないことが残念だが、少しでも教わったような寄り添った支援ができるようにしていきたい。
- ・ 何をするかは思いつかないが。今後の仕事の中で、研修で聞いたこと、研修で会った人たちの思い出して、支援に役立てていきたいと思う。
- ・ 若者の就労支援の仕事をしているが、今回のように様々な困りごとのケースを学んで参考にしていきたい。特に丁寧に話を聴いていくことや、周りの人への助けを活用しながら策を考えていきたい。
- ・ 寄り添った支援、相談者のニーズに合わせた関連機関へ確実につないでいきたい。
- ・ 今まで興味があった DV、ひきこもり、自殺、グリーフサポートについて学ぶことができた。対応も大切であるが、そういった方々の掘り起しが大切ということも知った。生活支援をしながらアンテナを立てて仕事をしていきたいと思う。
- ・ 他機関との連携の大事さを改めて実感した。1つの機関で相談者の支援にあたるには限界があるが、それぞれおの穴を埋めながら相談者の必要な支援にあたるよう努めたいと思っている。
- ・ 1人の人間を生からしまでトータル的に、また、多角的な視野に基づいた観点から見つめ、寄り添い、寄り添われる関係を築いていきたい。
- ・ 地域の中で手助けをできる事例があるので、支援につなげるようにしていきたい。
- ・ 各分野の専門的知識を学び、今後の活動の中で生かしていけたらと思う。
- ・ 公的・私的に関わらず、困っている人がいたら手を差し伸べることができるよう実践していきたいです。また、これから自分がしていこうとしていることも今回の学びを生かしていければと思う。
- ・ 今後の自分の活動の中で生かして活用していきたい。
- ・ 各分野の知識を学ぶことができ、とても良かった。今後の業務を行う上でのヒントとなる点もあり、活かしていきたいと思う。
- ・ もっと詳しく受けられたらと思う。
- ・ パーソナルサポーター養成講座の快哉を待ちながら、他の勉強を重ねていきたい。
- ・ 要介護者の居宅支援を行っているが、家族に問題のあるケースも多く、家族の支援につなげていける所を、と、受講した。

3. これからのくらし仕事支援室に期待することは何ですか。

- ・ 年代別このような講座を開いて下さい。特に 30 代、問題の多い多忙な日々で、子どもを預かってくれる場を設けてもらえたら嬉しい。
- ・ 行政機関の中にいると制度を横断するということが公的には困難。7 日の吉田参与の言う通り、また日々の業務において、1人の相談者に長時間費やすことも難しい現状。これからは自分たちにはできないことを継続して取り組んで欲しい。
- ・ 規模を拡大し、利用者が相談しやすい環境になってきたようなので、更に拠点を増やしてもらいたい。
- ・ 今後も寄り添い、最後まで共に見守る姿勢。事例発表を聴いていて素晴らしいと思った。
- ・ 失業期間の長引く人への対応についてのセミナー等

- ・ 岩手県は自殺者が多いと聞いた。支援をする人に手を差し伸べて、優しい場所であってほしいと思う。
- ・ 福祉現場でも、複合的な支援でなければ解決できない事例が多いと思う。是非パーソナルサポートを広めて、継続して欲しい。
- ・ これから支援室の存在を市民に広く知ってもらえる PR 活動。知れば、相談したい人がたくさんいると思う。
- ・ 支援機関・団体の情報提供→「梅の湯」のように協力企業、受け入れ可能企業等の開拓と紹介。
- ・ 今回同様の講座を継続。
- ・ 資格や免許につながるプログラムも行ってほしい。
- ・ 様々な相談機関のネットワーク作り。
- ・ その人が抱える生活課題を一緒に考え、寄り添った支援をしてもらい、必要な制度を利用し、自立できるような支援をしてほしい。
- ・ 1人でも多くの生活困窮者へ支援が届くよう、仕事（労力）が生きがいになるよう指導を期待する。
- ・ またこのような講座を開催して欲しい。
- ・ 高齢者の仕事への支援。できることで少しでも収入を得たり、生きがいとしたりできるよう、支援があれば良いと思う。
- ・ “これくら”という略語を初めて知った。相談者一人一人に真剣に向き合っていることがよくわかった。今後もよろしくお願ひしたい。
- ・ 一人一人に合ったカウンセリングや支援方法など、情情的にもとても大変な作業だと思った。支える側であっても「勉強させていただいている」という誠実さがこれからの良さだと思った。今後ともよろしくお願ひしたい。
- ・ 支所や相談員を増員し、1人でも多く支援して欲しい。特に沿岸部は生活再建、就労、メンタル面でも深刻な状況です。また、支え合う地域社会づくりにも力を入れて欲しい。
- ・ いろいろな意味で何でもあり状態な支援室だと思う、たくさんの相談、掘り起し等を加えると大変な数になりますが、今までありそうでなかった機関なので、予算の都合があるかと思うが継続的な活動を期待する。
- ・ 事例発表。困難事例のケース検討会。年金について（企業年金を含む）詳しく研修会で触れて欲しい。
- ・ 支援室が長期にわたって続けられること。もっと情報を一般に広く発信して、開かれた支援室にしてほしい。
- ・ 事例発表のみの研修会を企画してもらえると、すごく興味がある。困難な事例が多くて大変かと思うが、これからも頑張る。
- ・ 日本のソーシャルインクルージョンを根付かせる機関あるいは推進する機能を持つ支援室といった方向性。支援の質を担保する向上させるための研鑽を怠らないことを期待する。
- ・ たくさんの弱者をサポート
- ・ 各関係機関との連携をスムーズに行い、支援者のサポートを行って欲しいと思う。
- ・ 大変な仕事だが、素晴らしいので続けて欲しい。
- ・ これからもどんどん和を広げて活動して欲しい。そしていつか、自分も何か手伝いできることがあれば・・・と思った。また、このような研修があればいいと思った。

- ・ 在宅している人への啓発活動を多面的に進めてもらえたら、と期待している。
- ・ 地方ではつなげられる所は少ないので、サポートを期待する。
- ・ 最後の駆け込み寺として県民は利用します。しかし残念ながらP Sセンターで弾かれてしまった人が多くあると聞いている。せひ寄り添って欲しい。
- ・ 今日のような勉強会の機会を継続的に提供して欲しいと思うし、HP上でもこのような情報を発信して欲しい。
- ・ 今後も他機関との連携を深め、1人でも多くの相談者が幸せを感じられるよう頑張ってもらいたい。
- ・ まだまだ就労できない人たちがたくさんいると思う。そういう人々の役に立つような仕事を続けて欲しい。
- ・ ハンディキャップを持っている人への支援の手法や利用できる制度を、情報提供して欲しい。
- ・ 公的機関でできない仕事、個人のためにでき得る精一杯の仕事には本当に素晴らしいと思うが、まだまだ自分のように知らない人の方が多いと思う。そして利用しなければならない人（隠れた人）がたくさんいると思う。1人でも多くの人にP Sが知れ、利用・相談することを願う。

4. その他、感想などをご自由にお書きください。

- ・ 初日の講義、これからのくらしと社会的包摂～パーソナル・サポート手法～の吉田直美講師、わかりやすく熱の入った話、流れ、大変感動を受け感謝している。
- ・ 1日目だからだろうが、「支援に必要な専門知識を提供」。2日目に期待する。
- ・ 残り3日間の講座も期待している。
- ・ ただ興味があるというだけで講座に参加したが、たくさんの方の活動によって様々な支援がなされていることがよくわかった。
- ・ 会場選定に加え、空調設定等の検討をお願いしたい。
- ・ 色々な分野の話聞いて勉強させてもらった。これからの活動に生かしたいと思う。
- ・ 勉強不足だったと思うが、これからの事業の内容や機関としての位置づけ等を最初にもう少し説明をしてもらえれば、と思った。
- ・ P Sの人たちの仕事内容や重要性等は良くわかった。自分は知識が乏しくP Sの人たちの位置づけが良くわからないし県からの依頼で働いているのか、ボランティアなのか・・・それぞれの立場でできることに限りが出てくるが、縦と横のつながりの位置づけがわからず、少し困惑している。市との関係、県との関係、NPOなど、その事も知りたかった。縦割りの行政を横列に串刺しに本当にできるには、まだ何か不足ではないか。県南サポートセンターの中に入っている相談員の人々は、横につながっているのか？
- ・ もっと障がい者の方との接し方等について知りたかった。
- ・ 14日の3講義目のロールプレイは、もう少し早い時間帯の方が良いと思う（皆さん、眠そうだった）。
- ・ 今回の会場の狭さ、机の狭さ。次回はおでつやアイーナで開催して欲しい。今回の90分1コマは辛かった。
- ・ 講義の時間が1時間半だと少し長く、集中力が途切れてしまうので、1時間ぐらいが良いのかなと思う。
- ・ 部屋の中が寒くて大変だった。
- ・ 事例、対応をもっと聞きたかった。

- ・ 参考になった。様々な支援機関、支援内容を知ることができた。
- ・ 福祉とは全く関わりのなかった人たちが、自然体で障がいを持っている方々と地域と社会のパイプ役をしていることに感動した。改めて人とどう向き合うか考えさせられた。
- ・ パンフレット「利用者の声」冒頭の30代女性の手記に感銘した。このように素晴らしいPSがいるのに驚いている。直接話を聞きたかったが今回は来ていないとのことだった。利用者の“今”も聞きたい。
- ・ 講師の皆さん、90分では足りない様子。質問タイムもなかったのも、あと30分くらい長くして直接の質問のやりとりをしたかった。
- ・ 修了証書の意味がよくわからない。
- ・ スタッフの皆さん、ご苦労様。
- ・ 今回の参加者の所属団体等のわかる資料が欲しい。(名簿は無理?)
- ・ グループディスカッションのみならず、フリートークなど、参加者の情報交換する機会があった方が良いかもしれない。もしくは名札をつけてはどうか。
- ・ 資料の説明だけの講座は眠くなる。講師の選考も一考を!
- ・ たいへん勉強になった。今後も続けて欲しいと思う。
- ・ 本当にためになった4日間だった。
- ・ 今後の希望：*法テラス、信用生協、社会福祉協議会、警察、いのちの電話などについての講演。
 - *市内の電話相談のネットワーク作り・・・様々な相談機関の紹介(チラシ、アンケートなど)、内容、成果、課題など、できればそうした相談機関同士のつながりや組織化、ネットワーク作りになればと思う。
 - *電話相談の実際。
- ・ 生活保護についての役所側からの説明を受けることができ、大変参考になった。
- ・ 事例発表がとても参考になったので、もっと聞きたかった。
- ・ 「〇〇センター」って何と多いのだろうか。住民が混乱するのは当たり前。そして、ここではこのこと、そのことはあそこ、と担当が違う。わかるが、何とかならないものだろうか。
- ・ これだけの事例がとてもわかりやすく興味深く、もっとたくさん聞いてみたいと思った。講座で配布された資料はとても親切心ではあるが、それを読み上げるだけの講座内容になりがちで残念に思う。グリーフサポートのような資料は少なくとも事例を多く教えてもらえる内容の方が、充実感があった。
- ・ 個人的な感想だが、ディスカッションを取り入れたものも楽しさがあって良かった。
- ・ 最後に社会的企業の講座を持ってくるところが興味深かった。
- ・ 4日間講習を受けたが、自分も相談者に直接寄り添い、その人が自立するまで見守る仕事をしたいと思った。
- ・ 他制度で、まだまだ知らないことが多い。公的制度のほかにもNPO等で連携できそうなものがあれば紹介して欲しい。また、研修会の中でも取り扱って欲しい。
- ・ 特に3日目(9/14)の「ひきこもりとその支援」の講義は、定義に始まり現状の話、今後の支援など、具体的な様々な視点の必要性など、興味深く、今後の相談等におおいに参考になる内容だった。また、4日目(9/15)のグリーフサポートの講義は重くて深い。そして大切なテーマを突き付けられた気がした。とても有意義な4日間だった。今後の活動に役立てることはもちろん、自分自身の今後の生き方にもいろいろ提言をもらった。

- ・ 色々な人から話を聞いて、支援先をどこにつなげばよいか考え、探すだけで疲れてしまう。つないでも、それがうまくいくとは限らないので、同じことの繰り返しになってしまうことも多い。それが1つにつないただけでうまく解決してもらえるとすることは、とても良い。参考になる話をたくさん聞いた。
- ・ 会場が少し狭かった。事例発表はすごく興味を持って聞くことができた。パーソナルサポーターの仕事にあこがれる。吉田直美氏の講座がすごく楽しく、退屈することなく受講することができた。また、高橋孝一氏の講座も色々考えさせられ、良かった。涙が出た。
- ・ 9/8(土)の「障がい者への就労支援」について、そのような事業をしているかの紹介でなく、ケースについての対応、検討などの話題提供、社会的包摂を絡めた支援の展望、その上でのパーソナルサポーターの役割等を話してもらいたかった。
- ・ 定期的にパーソナルサポーターの講習会・交流会を行ってもらいたい。
- ・ 今回の研修会では色々な話を聞くことができて、とてもためになった。色々な人がそれぞれの場所で様々な活動をしているのも知れたし、そのことを踏まえ、今後の自分の仕事にも活かせれば、と思った。とにかく自分の狭い世界でものを見ていたのだが、少し広がったように感じた。やはり、人の話を聞くことは大切だと感じた。
- ・ 高齢化の進んでいる市町村では、インフォーマルな思念は老々支援の地域もある。また、介護者が問題なケースもあり、多方面からの支援も必要で、関わる自分たちが情報収集に努めて支援につなげていこうと思う。
- ・ 今回の講座内容について、全般的に内容が薄く、期待していたものとかげ離れていたことが非常に残念だった。自分を含め、参加者の多くは業務として何らかの形で関わっている人の参加が多かったのではないかと推測される。その点を踏まえ、基本的な概要等の説明については最小限にとどめることとし、実際の事例や支援の中で浮かびあがっている問題点・課題点等、従前に開催された内容よりも踏み込んだ内容を期待していた。参加対象者をどのような人々として設定しているのか。それに基づき、講義内容・講師選定を十分吟味するべきと考える。
- ・ 社会的企業とパーソナルサポート(9/7)について：多くの対応事例を持っていると思われたが、残念ながら十分に話を引き出すことができなかつたと見受けられた。どの部分にポイントを置き、話を展開していくのか、多少ブレがあった。
- ・ 障がい者への就労支援(9/8)について：この講義についてはタイトルとは全く別の内容で、ほとんどが助成金制度の説明に終始した。また、精神障がい者(又はその疑いがある人)に対して就労支援を行う場合、特に医療機関に関わっている場合は、主治医の見解について確認することが不可欠である。支援に関わる基本事項も把握しておらず、再三にわたって「素人集団」であることを連呼する人(団体)が果たして講師として適切であるか疑問である。
- ・ 依存症からの回復(9/8)について：当事者の経験談を聞くことができたことは貴重であったと思う。論理的というところとはだいぶかけ離れており、聞きづらかつたし物足りなさを感じた。
- ・ 引きこもりとその支援について(9/14)について：内容は充実しており良かったが、ペース配分がうまくいかず、最後が尻切れ状態で終了してしまったことが残念。
- ・ 各日オリエンテーションについて：全般的に聞きにくかつた。スムーズでわかりやすい進行を望む。
- ・ 次回講座の開催予定があるとのことだったが、今回を含め、これまでと同じような内容で開催されるのであれば、一般市民の人々を対象に開催した方が良い。

- ・ パーソナル・サポート事業報告会（10/5）について：パネラーとして県南の人の名前が挙がっているが、そもそも拠点として機能しているのか？発表できるような事例など本当にあるのか？
- ・ 県内 2 か所に拠点が設置されているものの、盛岡と県南とでは「パーソナル・サポート」に対する考え方や対処方法について相違があると聞いている（県南では対応する人を選別しているという話）。県の委託事業ということであるが、全県として統一された支援が実施されていないことは問題である。最低限、一定レベルの維持は必要。